



今、他府県では、どんな子ども会活動が盛んなんだろう?ということで、近畿の各府県の活動の様子をご紹介します「子ども会発見伝」。今回は和歌山県です!



和歌山県子ども会連絡会の巻

現状を見つめながら、一歩ずつ、一歩ずつ...

和歌山県は、南北に長い地理的条件に加え、少子化の影響もあり、県全域を対象とした事業での人集めが年々困難になっています。そのような中、毎年開催し好評を得ている三つの事業について紹介させていただきます。



大事なのは指導者のスキルアップ!

やっぱり子どもは元気がイチバンです!



和歌山の歴史・文化を自然の中で学ぶ!

一つ目は、各地域の指導者のスキルアップを目的に6月12日に開催した「指導者研修会」です。今年は、コミュニケーションをより豊かに楽しいものとする手法として、大東市立野外活動センター館長中澤亮氏から「プロジェクトアドベンチャー」について御講義いただきました。実践を交えての講習に、参加者全員が笑顔あふれる研修となりました。

二つ目は、夏休みのメインイベント「地域子ども集団親睦交流スポーツ大会(ドッジボール大会)」を8月22日に開催しました。県内7地域の代表チームが集まって行われる大会で、16チーム、285名の子ども達の参加のもと、好プレーも続出し非常に盛り上がる大会となりました。

最後は、ふるさと和歌山の歴史や文化、自然に目を向け、互いの交流を深めることを目的に「熊野古道☆きらめきウォーク」を10月22日、23日の2日間にわたって開催しました。世界遺産「熊野古道」でのウォーキング、県立白崎青少年の家でのレクリエーションや陶芸教室など、参加者全員が見る見るうちに仲良くなっていく活動となりました。

やはり、和歌山県子連も参加者の集客に苦労されているようです。

昨年参加者が集まらず中止した「熊野古道清掃ウォーク」から「熊野古道☆きらめきウォーク」にネーミングを変えることでイメージアップをはかり、今年は実施することができたようです。

和歌山県子ども会連絡会では、今後も子ども達の現状を見つめながら、誰もが生き生きと活躍できる活動を継続していきたいと考えています。



- 子ども会発見伝～和歌山県子ども会連絡会～
- 今どきの子どものからだって?
- KYTチェックシート「ドッジビーとは?」
- 大阪府青少年・地域安全室青少年課からお知らせ
- 泉南ブロック子ども親善交歓大会
- 大阪府子ども会育成者研修・近畿地区子ども会育成研究協議会顕彰・青少年育成府民会議顕彰 報告
- 出会い ヒトコト
- INFORMATION

一般財団法人 大阪府子ども会育成連合会

大阪市浪速区幸町2丁目7番3号 リそな・アルテ桜川ビル2階
TEL 06(6561)0051 FAX 06(6561)0053
Eメール fukodomo@oak.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.fukoren.sakura.ne.jp/>

今どきの 子どもの「からだ」って？

「最近の子どもは、あまり外で遊んでいるのを見かけないけど、大丈夫かな？」

そう思っている人も多いことでしょう。

今回は、京都学園大学健康医療学部健康スポーツ学科・神戸大学名誉教授の
平川和文先生に今どきの子どもの「からだ」についてお聞きしました。



わが国の子どもの体力は1980年代後半がピークです。その当時の子どもと比べると、今は身長も体重も増えていて体格は良くなっていますが、投力や握力など瞬時に大きな力の発揮が必要な能力がかなり落ちており、また多様な動きの経験が減っている傾向にあるようです。

現代は子どもがスポーツをする環境が整ってきており、日本のユーススポーツは世界と比較しても高い技術力と強さを持っています。しかし、小さい時からひとつのスポーツクラブなどに入っている子どもは、ずっと一種目だけをやっている場合が多く、そのような運動・スポーツのやりすぎから下記のような問題点が指摘されています。

運動のやりすぎの 子どもの問題点

- ①特定のからだの部位の使い過ぎ(オーバーユース)による「スポーツ障害」
- ②勝ち負けを優先する「バーンアウト(燃え尽き症候群)」

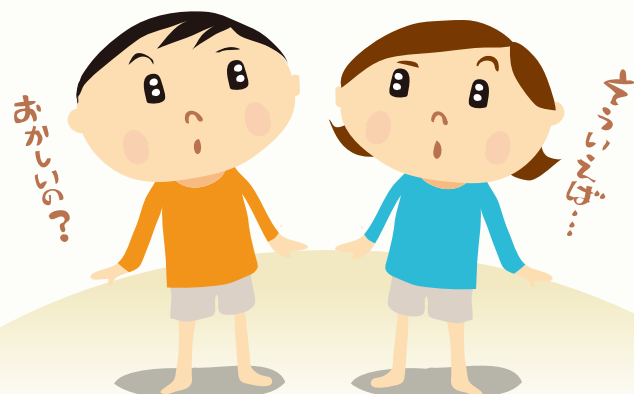
原因として考えられるのが、オーバーユースと誤った指導、子どもの発育・発達を考慮した指導がなされていない、専門化が早すぎる、長時間の練習(生活習慣全体の乱れ)、心理的ゆとりが少ない などの点です。

一方、運動クラブに入っていない子どもは、パソコンやゲーム・スマホなどの普及により、外遊びが減り、座っている時間が多くなっていることなどによる「運動不足・体力低下・健康問題・運動が嫌い」などの問題があります。

つまり、「運動する子としない子の差が激しく、二極化が進んでいる」というのが、現在の子どもの状況と言えるでしょう。

運動不足、体力・運動能力低下の影響は、日常生活における動きの中にも表れます。次に日常生活における子どもの身体の変化を見てみましょう。

「子どものからだと心・連絡会議」が実施した調査によると、施設や学校などで先生が最近の子どもの「からだがおかしい」と感じる項目を10あげると、下表のようになりました。



最近増えていると実感される子どものからだの「おかしさ」ワースト10

施設・学校段階比較

n = サンプル数(調査数)

保育所(n=199)		幼稚園(n=104)		小学校(n=518)		中学校(n=256)		高等学校(n=164)	
1 アレルギー	75.4	1 アレルギー	75.0	1 アレルギー	80.3	1 アレルギー	81.2	1 アレルギー	78.7
2 背中ぐにや	72.4	2 背中ぐにや	73.1	2 視力が低い	65.6	2 平熱36度未満	70.7	2 夜、眠れない	68.9
3 皮膚がカサカサ	71.9	3 すぐ「疲れた」という	71.2	3 授業中じっとしていない	65.4	3 首・肩のこり	68.0	3 すぐ「疲れた」という	62.8
4 保育中、じっとしていない	70.9	4 おむつがとれない	69.2	4 背中ぐにや	63.9	4 夜、眠れない	67.2	3 首・肩のこり	62.8
5 すぐ「疲れた」という	67.3	4 自閉傾向	69.2	5 すぐ「疲れた」という	62.9	5 すぐ「疲れた」という	66.4	5 平熱36度未満	61.6
6 嘔まずに飲み込む	64.8	6 保育中、じっとしていない	63.5	6 ボールが目や頭に当たる	60.6	6 体が硬い	59.8	6 うつ傾向	59.1
7 夜、眠れない	57.3	6 発音が気になる	63.5	7 平熱36度未満	59.3	7 不登校	59.0	7 腹痛・頭痛を訴える	57.3
8 自閉傾向	56.8	8 床にすぐ寝転がる	62.5	8 絶えず何かをいじっている	58.1	8 腹痛・頭痛を訴える	57.8	8 腰痛	55.5
9 床にすぐ寝転がる	52.8	9 体が硬い	59.6	9 皮膚がカサカサ	57.7	9 視力が低い	57.4	9 病状説明できない	54.9
10 転んで手が出ない	51.8	10 つまずいてよく転ぶ	53.8	10 休み明けの体調不良	57.1	10 休み明けの体調不良	57.0	10 ちょっとしたことでも骨折	52.4
10 つまずいてよく転ぶ	51.8	10 皮膚がカサカサ	53.8						

※表中の数値は%を示す。また、小学校、中学校、高等学校は養護教諭による回答

子どものからだと心・連絡会議「子どものからだの調査2015」から

「すぐ『疲れた』という」は、全ての施設・学校で上位に位置しています。「背中ぐにゃ」「床にすぐ寝転ぶ」などの体幹筋力の低下によるもの、「アレルギー」「皮膚がカサカサ」「夜、眠れない」などの免疫異常や睡眠異常、不快感の経験不足、「保育・授業中、じっとしていない」「自閉傾向」などの集中力の欠如、不安・緊張傾向など、様々な原因による症状が見られます。

このような状態は、体力測定ではわからないものであり、日常生活のリズムができていない、筋・骨・ホルモンなどの機能が十分でないなどの原因により、からだ全体に何らかのサインが出てきているものです。「体験不足」や過剰な情報の氾濫による「過剰な刺激」が、心や体の発達にひずみをおこしていると言えるのです。

特に幼児期は、生涯にわたって必要な多くの運動の基となる多様な動きを幅広く獲得する非常に大切な時期であると言われていいます。「体のバランスをとる動き」、「体を移動する動き」、「用具などを操作する動き」などは、体を動かす遊びや生活経験などを通して、易しい動きから難しい動きへ、一つの動きから類似した動きへと、多様な動きを獲得していく必要があります。

子どもには発達段階に応じた運動の量や質が大切で、一つの動きだけでなく、バランスのある多様な動きが必要です。下記の「発育期の子どもの身体運動・スポーツガイドライン策定への提言」(日本学術会議 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会)、および体力・運動能力の現状から「小学生の運動プログラム」を考えてみましょう。

「発育期の子どもの身体運動・スポーツガイドライン策定への提言」

(日本学術会議 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会)

- ① スポーツ、外遊び、自然体験活動等、子どもがより一層身体を動かし、運動に親しめる方策の推進
- ② 子どもの体力向上のための生活習慣を確立するための方策
- ③ 多様な動きを身につける運動(遊び)の推進
- ④ 「学童は身体の健康な発達のため、毎日合計60分以上の中程度～高強度の身体活動を行うべきである(WHO)」
- ⑤ 1日11,000～15,000歩の歩数を推奨(※今の子どもは、だいたい7,000歩程度)



小学生の運動プログラム

1 動きづくり運動

(正確でスピードのある動き)

- ・動きは姿勢の安定性とバランスが基本
- ・移動と操作能力: 走・跳・投・捕・蹴・止・打・組の動作
- ・巧みな動きは上肢・体幹・下肢の協調した動き



2 体づくり運動

・敏捷性を高めよう。

- ・腕で身体を支え、バランスをとれる能力。
- ・股関節の安定性と柔軟性の運動
- ・身体全体を使ってパワーを発揮する運動

3 応用編

・楽しいゲーム・スポーツ



子どもの時は、できるだけ、いろいろなことを体験させて、からだと心をバランスよく形作る必要があるのですね。「こども会」に入っていることが、運動不足を解消することにつながったり、様々な体験をする機会になったりすれば、子どものからだ心との成長にとって大変プラスになると言えますね。早速、みんなで、今後のこども会活動について考えてみませんか。

知ってる!?

OSAKAスマホサミット

大阪の小中高生がスマートフォン利用の
いい面と悪い面について考えています!



動画見てみて!



次のような問題を取りあげています

「あかで!LINEいじめ」
「こんなはずじゃあ…」
「ながらスマホ」

スマホは上手に使ってなんぼ。でも、困ったことが起きたら
一人で悩まず周りの大人や専門家に相談しよう!

大阪府青少年・地域安全室青少年課

大阪府内の相談窓口 一人で悩まず気軽に相談しましょう!!

いじめ等の学校でのトラブルに関する相談

大阪府教育センター「すこやかホットライン」

☎ 06-6607-7361 (平日9:30～17:30)

✉ sukoyaka@edu.osaka-c.ed.jp



消費生活に関する相談

大阪府消費生活センター

☎ 06-6616-0888 (平日9:00～17:00)

消費者ホットライン ☎ 188 (局番なし)

メールで
相談も
できます!



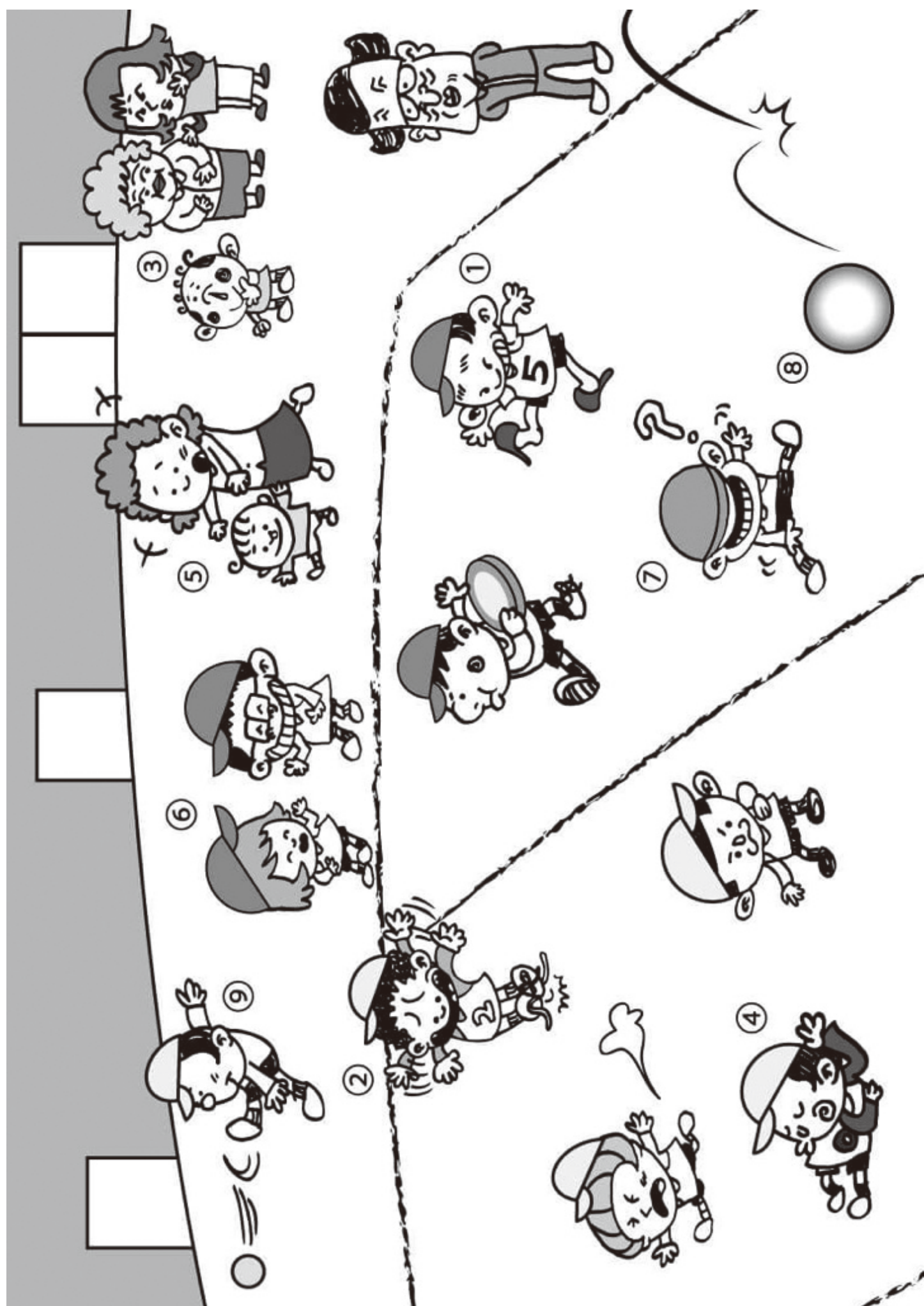
サイバー犯罪に関する相談

大阪府警察本部

- ① サイト左欄の相談窓口
- ② 各種相談窓口
- ③ サイバー犯罪相談

次の手順で
アクセスしてください ▶▶▶





子ども会でもおなじみの人気スポーツ！

ドッチビーとは？

ドッチビーとは、ウレタンとナイロンを使用したフライングディスクのことです。代表的な競技がドッジボールのボールの代わりにディスクを使うで行うディスクドッチで、この競技自体をドッチビーと言うこともあります。ドッチビーは、性別、年齢にかかわらず、また、これまでスポーツが苦手だと思っていた人でも簡単に取り組んでもらうことができる生涯スポーツのツールとして、非常に優れた特性を持っています。

提供：日本ドッチビー協会

大阪府フライングディスク協会 河野 淳一

「安全」が大きなキーワード

従来の「フライングディスク」と比べて、最も大きな違いはドッチビーは布素材で作られているため、ケガを生みづらいということです。これは遊びやすさにもつながっています。



当たっても痛くない

野球やサッカーボールのように固くないので、仮にキヤッチし損ねて顔に当たっても、それほど痛みはありません。ケガや事故が起こる危険性が他のスポーツよりも低いので、安心して遊ぶことができます。



丈夫でこわれにくい

ドッチビーは柔軟性に富んでおり、折ったり踏んだりしても簡単にはこわれません。またスポーツバッグに使われているものと同様に、丈夫なナイロン素材で作られているため、表面も破れにくくなっています。



水に浮くので失くしにくい

芯材となっているウレタンが水に浮くほど軽いいため、持ち運びに便利です。濡れても大丈夫な素材ですから、水辺でも遊ぶことができます。また、もし池や海に落しても沈まず、目立つデザインが紛失を防ぎます。



みんなできやってみよう！

それでは、実際にＫＹＴ（危険予知トレーニング）をやってみましょう。表面のイラストを見て、危ないところはどこでしょう？ どのような危険があるでしょうか？ その危険は、どのようにすれば回避できるでしょうか？ みんなで話をしながら、下の表に記入してみてください。



危ないところ (様子) はどこ？	どのような危険が起こる可能性がある？	どのようにすれば、その危険は回避できる？

危ないところ (回答例)

- ・スリッパを履いてやっている
- ・靴のひもが、ほどけている
- ・コートの中で、寝転んでいる
- ・親が立ち話をしている、その近くの小さな子どものことを気にしていない
- ・小さな子どもがコートへ進入しようとしている。(親が追いかけている)
- ・コート近くに関係なく立って話をしている。(じゃま)
- このほかにも、危険なところがあるかも！

こども親善交歓大会(グラウンドゴルフ) 大会で深まる親善

平成28年12月11日(日)、貝塚市民ふれあい運動広場において、泉南ブロックこども親善交歓大会が開催され、岸和田市以南の5市3町から100名を超えるこども達が集まりました。

ホールインワンを狙って懸命にプレー、ボールが入ると歓声が上がり、子どもの楽しくはじける声がグラウンドに響きました。

天候にも恵まれ、他市町の子どもが親善を深める終始笑顔のあふれる大会となりました。



おめでと〜!
楽しかったね!

優勝: 貝塚市こども会育成連合会
準優勝: 田尻町こども会育成連絡協議会
3位: 泉佐野市こども会育成連合会

平成28年度 大阪府こども会育成者研修 開催

平成28年11月19日(土)にドーンセンターで公益社団法人全国子ども会連合会事務局長杉浦隆氏を講師に迎え、子ども会KYT初級指導者養成講習会を開催しました。この講習会はこども会活動を進めるための安全教育や安全対策として「子ども会KYT」を学習し、地域で周知を図るための推進役となる指導者養成講習会です。参加者は32人ありました。



平成28年度 近畿地区子ども会育成研究協議会顕彰

今年の近畿地区子ども会育成研究協議会は、一般社団法人兵庫県子ども会連合会が主管し平成28年12月3日(土)~4日(日)にANAクラウンプラザホテル神戸で開催され、長年こども会活動の育成・指導に貢献された方々への表彰がありました。大阪府から酒井勝将さん(茨木市こ連)、石井 薫さん(大東市こ連)、阪田奈穂子さん(藤井寺市こ連)、長谷山満雄さん(忠岡町こ連)、河合建緒さん(岸和田市こ連)の5名の方が受賞されました。本当におめでとうございます。



おめでとうございます!

平成28年度 青少年育成府民会議顕彰

多年にわたり青少年の健全育成に尽力・貢献した育成者を表彰する青少年育成府民会議顕彰が平成28年11月29日(火)ホテルプリムローズ大阪であり、個人の部で岬町こども会育成連絡協議会の川島明夫さん、高槻市こども会連合会の黒木正統さん、団体の部で八尾市青少年育成連絡協議会が受賞されました。おめでとうございます。



出会い ヒト

こども会活動で出会ったこんなヒト、あんなコト。

ふれあい年賀便

(摂津市 近藤)



「あけましておめでとうございます。年賀状です。」と大きな子どもたちの声と年賀便。「ハイッおめでとう。いつもありがとう。待っていたヨ!!」とお年寄りの笑顔が迎えてくれる。今年も1月7日に地域の70歳以上の方に年賀状を届けました。(729名)年末に千里丘小学校の全児童が2~3枚の年賀状(地区福祉委員会が準備)を作成して民生委員の方が地域毎に宛名を記入します。(これが大変です)

これを民生児童員、民生員、校区育成会の役員と子どもたちが手分けして一通づつ配達します。60~90分位かかります。もう30年位続いています。摂津市に小学校が10校ありますが、この様な行事は千里丘だけのようです。子どもたちと地域のつながりが毎年このふれあい年賀便を通して初まります。準備は大変ですが地域のお年寄り子どもたちの笑顔を見ると毎年実施してよかったと思います。

ただ一部の方には「コンなもんイラン」と返される事もありますが、とても残念です。地域で子どもを育てる大切な行事なのに、なぜ「ありがとう。」と声かけられないのかな。

INFORMATION

第50回 全国子ども会育成中央会議・研修大会

福岡県久留米市で開催されます。大阪府から21名が参加いたします。次号(3月号)で報告いたします。

日程: 平成29年2月17日(金)~19日(日)

場所: 久留米シティプラザ

平成28年度 大阪府こども会スポーツ事業 「大阪府こども会大会」

親善スポーツ大会(ドッジビー大会)開催。今回は6ブロックから低学年・高学年各1チーム選出されました。

日程: 平成29年3月12日(日)

場所: 羽曳野市立総合スポーツセンター(はびきのコロセアム)

編集 後記

ドッジビー競技大会形式で実施して2年目に入りました。各ブロック大会に向けて練習をするのでビブス(ゼッケン)を借りたいと希望団体が増えてきています。とっても嬉しいです。普及を目的で実施していましたが、ここにきて盛り上がりが出てきました。出場される皆さんガンバレ!